

第2分科会 金子みすゞの世界に触れる

－金子みすゞ記念館・学校法人あおい学園認定こども園あおい幼稚園－

ねらい 童謡詩人金子みすゞさんの世界観に学び、子どもの看取り及び子どもへの接し方における慈しみとやさしさについて考える。

講師 金子みすゞ記念館 館長 矢崎節夫様

講師をお務めいただいた矢崎節夫さんについて知ることが、講演内容のより深い理解につながると考え、ここでプロフィールを紹介します。

昭和 22（1947）年、東京生まれ。早稲田大学文学部卒業。

大学在学中より童謡・童話の世界を志し、童謡詩人佐藤義美、まど・みちおに師事。

昭和 57（1982）年、童話集『ほしとそらのしたで』（フレーベル館）で、第12回赤い鳥文学賞を受賞する。

自身の創作活動の傍ら学生時代に出会った一編の詩に衝撃を受け、その詩の作者童謡詩人金子みすゞの作品を探し続ける16年ののち、ついに、埋もれていた遺稿を見つけ『金子みすゞ全集』（JU 払出版局）として世に出し、以後その作品集の編集・出版に携わっている。特に、長年の努力の集積として執筆した『童謡詩人金子みすゞの生涯』（JULA 出版局）においては、平成 5（1993）年、日本児童文学学会賞を受賞している。

長年にわたり、全国各地で講演を行い、金子みすゞの魅力を多くの人々に伝える。

また、呼びかけにより、ネパールにみすゞの名前を冠した小学校が建設される。

東日本大震災の折には募金活動を行い、岩手・宮城・福島の3県の小中学校に金子みすゞの詩集を送るなど、様々な活動を行っている。

平成 15（2003）年 4 月、金子みすゞ記念館（山口県長門市）の館長に就任。

平成 26（2014）年、長年にわたって「金子みすゞ甦り」に努めた業績と、童謡集『うずまきぎんが』が評価され、第13回童謡文化賞受賞。

講演内容

金子みすゞさんの視点に立ち、物事をどうとらえているか？

わたしの立場ではなくあなたの立場から物事を見る。幼稚園の先生にとっても、幼稚園の先生の立場から物事を見るのではなく、子どもの立場から見て保育することが大事だと講話されました。

「わたしと小鳥と鈴と」の詩の中でも最初は私が一番前にあるが、詩の最後のところでは「鈴と小鳥とそれからわたし」と表現されているように、私目線ではなく、あなたから、時には生き物から見た感じ方を大切にしている。

金子みすゞさんの詩を子どもたちに紹介してほしい。歌ではなく、できれば詩を詠む形で紹介してほしいとのことでした。

仙崎の街並みの見学

金子みすゞ記念館から認定こども園あおい幼稚園の間のみすゞ通りを歩き散策しました。

仙崎名産のかまぼこ板を組み合わせ、童謡詩人金子みすゞをモチーフにしたモザイク画を制作しています。銚板一枚一枚には長門市を訪れた人や市民によるメッセージが記入されており、平成16年から毎年制作されています。

長門市仙崎のみすゞ通り中ほどにある、旧JA倉庫に展示されている「プロジェクトM20000」は、蒲銚板20,000枚を組み合わせ、金子みすゞの詩「大漁」の世界を表現しています。この「プロジェクトM20000」には仕掛けがあり、部屋の中にあるスイッチを押すとブラックライトに照らされた大羽鰻の大群が浮かび上がります。また、入口正面の壁面には、イラストレーター尾崎眞吾氏が描いた金子みすゞの肖像画がプリントされ、駐車場側の壁面には、12万枚の写真による巨大モザイクアートの縮小版がプリントされています。

金子みすゞをモチーフにした蒲銚板によるモザイク画は、仙崎のみすゞ通りに6か所（仙崎駅、松浦商店前、仙崎郵便局横、金子みすゞ記念館前、旧JA倉庫、仙崎漁協前建物）と長門湯本温泉に2か所展示され、訪れる観光客の絶好の写真スポットとなっています。

学校法人あおい学園認定こども園あおい幼稚園見学

3歳以上の教育部門と3歳未満の保育部門とに施設が2つに分かれています。

夏休み中ではありましたが、この日を登園日としました。全園児が登園していましたが、休み中でもあり、水遊び等の様子を参観していただきました。



報告者：学校法人あおい学園 認定こども園あおい幼稚園

理事長・園長 吉岡光雄